

11/23 第8回定例理事会開催

(1) 福祉専門職員賞金規則改定の件  
これまで福祉専門職員に支給している慰労金と特別慰労金を統合し、「賞与」として一本化をはか

ります。評価制度とも連動させることで、運用をわかりやすくするため、賞金規則の改定を議決しました。

12/26 組合員の“選び”でつくる社会づくりが評価「ジャパンSDGsアワード」を受賞

この賞は国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）達成に向け、優れた取り組みを行う企業・団体を表彰するもの。パルシステムの「ほんもの実感！くらしづくりアクション」が、SDGs推進副本部長（官房長官）賞を受賞しました。  
\*詳細はパルシステムホームページ参照



12/9 どころがすごい？ パルシステムの農産物

現在、検討中のパルシステム独自基準である「エコ・チャレンジ基準」の見直しについて、組合員論議を深めるための学習会が開催されました。講師は産直農産物担当の子会社（株）ジーピーエス取締役・事業本部長の工藤友明さん。農業の基礎知識や、パルシステムの農産物について話しました。



見直しを検討中のエコ・チャレンジ基準は、①削減目標農業を使用しない ②地域の特別栽培基準（農業の使用回数や化学肥料の使用量が、地域の慣行栽培の50%以下）に準ずることなどが条件。しかし、特別栽培基準は県ごとに定められているため、隣接する県でも農業の使用回数が違うこともあるなどの問題も。



工藤さんは、「次々に新しい科学的知見が出てくるなかで、削減目標農業は5年をめどに見直すことになってい

ます。異常気象の影響で、病害虫の被害は増加傾向です。一定の品質を保持しながら、農業の総使用量を減らす技術を生産者とともに追求していきたい」と結びました。

パルシステム 11月 data 総事業高 64億1,992万円  
組合員数：47万7,857人 予算比98.2% 予算未達成

リユース・リサイクル回収率  
\*回収率は2017年4～11月の回収率（供給品）

商品カタログ 80.4% ↓	紙パック 72.8% ↓	資源プラスチック類 37.0% ↓
卵パック 84.1% ↓	ABパック ヨーグルトパック 42.2% ↓	リユースびん 61.8% ↓
お料理セットトレイ 65.7% ↓		米袋 35.7% ↓

はじめませんか エコライフ!  
\*詳しくはパルシステム東京ホームページから

有機農産物は「コア・フード」

パルシステムでは有機JAS認証を取得した「有機農産物」と、それに準ずると判断される農作物（化学合成農薬などの不使用が2年未満など）を、トップブランドの「コア・フード」のマークをつけて取り扱っています。有機栽培を広げるための取り組みです。

パルシステム産直産地の有機JAS認証取得面積 全国の認証取得面積の **17.9%**（米を含む）  
出典：農林水産省統計（2016年4月1日現在）



山下 司郎さん（株）ちば風土の会

有機栽培は作物の生命力を、最大限に活かす農法です。それには、ただ有機肥料をたくさん入れればいい、というわけではありません。大豆やサツマイモなどは養分が少ない畑のほうが出来がいい。作物に合った土づくりが何より大切なことです。

それに「雑草・害虫＝悪者」という考え方も、違うと思います。雑草は小さいうちにすき込んでしまえば、畑の養分になる。微生物も増えて豊かな土壌になります。作物を食い荒らす害虫もある程度増えると、それを食べる虫が自然に増えておさまることが多い。

有機の野菜は雑草や病害虫など、さまざまなストレスを乗り越えてたくましく育ちます。そのせいか、近年増えている異常気象に、耐える力が強いのを実感しています。台風で倒れたねぎが、数日後には自然に起き上がっていたのには驚きました。

作物も虫も雑草も微生物も、それぞれバランスをとりながら必死に生きている…苦勞も多いけれど、そんな生命の営みに日々、向き合えるのは楽しいですね。



■お詫びと訂正：1月号8ページ「新年のごあいさつ」の記事中、理事長プロフィールに誤りがありました。正しくは「パルシステム商品では…」でした。お詫びして訂正いたします。

なんとなく身体にいいようにけど 有機野菜ってどんなもの？

- 「農薬を使わずに育てる」が有機栽培ではない
- 「有機・オーガニック」表示には有機JAS認証が必須
- パルシステムは「コア・フード」で取り扱い



漫画 小穴丸伸子

有機の広がりが安全な食を守る  
有機栽培に補助金を出す国もありますが、高温多湿の日本は病害虫のリスクが高く、有機栽培はまだ少数派です。パルシステムでは「コア・フード」として、有機JAS認証取得の野菜・米果物を取り扱っています。有機栽培の広がりは将来にわたって、安全安心な食べものを作り続ける環境を守ることに。『コア・フード』の応援をお願いします。

よく見かける「有機やオーガニック」とは、どんなものだろうか。  
ハードルが高い有機農産物  
有機栽培とは原則として化学合成農薬や化学肥料を使わない畑で栽培されたことを、登録認証機関が認めた農産物（有機JAS認証）のことです。一般の慣行栽培より病害虫の影響を受けやすいため、虫食いなどが目立つことがありますが、安全安心な環境にもよい農産物です。  
とはいえ日本の有機栽培の耕地面積は、わずか0.2%（平成27年）。その理由は生産管理や、有機JAS取得に手間や費用がかかって割高になることや、大きざや形にバラつきがあるため、市場が求める「揃った規格をまとまって出荷すること」が難しく、安定した出荷先を得にくいことです。近年は有機栽培に取り組み若手も増えていますが、生産量やコストの問題はつきまといます。

一部をご紹介 「コア・フード」産地の 病害虫・雑草対策

<b>天敵</b> 害虫をエサにする虫(益虫)を増やす	<b>太陽熱殺菌</b> 畑をシートで覆い、真夏の太陽熱で土壌を殺菌する	<b>緑肥</b> 土にそのまますき込んで、健全な土壌づくりに役立つ作物
--------------------------------	---	---

有機JAS認証とは…  
登録認定機関の認定を受ける  
野菜は種まきや植え付け前2年以上と栽培期間中に、化学合成農薬・化学肥料を使用しない(有機JAS認証で使用可能な資材を除く)  
ほかにも使用する種苗や資材、栽培管理の記録など詳細な規定あり

今月のキーワード

有機野菜